

駒込校舎で大学スタート

1961

女子栄養大学の歩み ～大学開設60周年記念展～

大学は駒込校舎で始まり、1回生(約60名)、2回生(約60名)は駒込校舎で4年間を過ごした。当時の駒込校舎には短大生、栄養士科生、調理師科生、短大二部生の総勢1000名余りがひしめいていた。念願の校舎が坂戸に完成したのは1963(昭和38)年のことである。しかし、学部生を全員収容することは不可能で、3回生(約60名)の新入生だけということになった。

坂戸校舎建設と教養部の設置

1963

本学の重要な教育の一環として、「生活の中で実践力を体得させる」ことが当初から計画されていた。

1963(昭和38)年、坂戸に教養部を設置することとし、校舎と学生寮を建設した。ここで、1・2年生は教養課程を学び、1年生は全寮制にして生活に実践する栄養学の大学として歩み始めた。



学園だより

『栄養と料理』1964(昭和39)年
2月号より

全国初の栄養学部の誕生

1965

1965(昭和40)年、前年に当時本学園の理事をお願いしていた徳島大学学長の児玉桂三先生が、徳島大学の医学部に栄養学科を新設されたのを機に、本学としても栄養学士教育を開始する機運が開けた。こうして、坂戸校舎教養部において2年間の教育を行う事を条件に栄養学部の設置が認められ、「栄養学部栄養学科」として新たな一步を踏み出した。

1967(昭和42)年には管理栄養士養成施設として承認され、1965(昭和40)年度入学生から適用された。さらに、1967(昭和42)年に栄養学部二部(夜間部)を開設。二部は大学が坂戸に全面移転した際にも、授業が夜間である事、その頃から活発になった生涯学習の一環として、通学に便利な駒込で継続することが認められた。



1966(昭和41)年当時の坂戸校舎外観